

日生病院は、新しく生まれ変わります！

日生病院は「済生利民」の精神にもとづき、地域・社会に対し、予防・治療・在宅まで一貫した最優の総合的な医療サービスを提供し、地域から愛され、信頼される病院を目指します。

日生病院は、日本生命が「共存共栄」「相互扶助」の精神を実践するために、死亡率の減少・健康の増進など「済生利民（生命や生活を救済し人々のお役に立つこと）」に関する事業の発達を目的として、大正13年に日本生命本館内に事務所を設置し診療を開始したことから始まりました。翌年には健康相談所を開設し、地震や台風の発生時には救護班を結成するなどの救護活動も行ってきました。

昭和6年に大阪市西区新町に日生病院を開院し、より多くの人々の命と生活を重視した医療と福祉活動を実践してきました。戦後はGHQにより日生病院が西日本のモデル病院に指定され、その後も成人病予防や健康管理に役立つよう人間ドック検診の業務も拡大しました。昭和57年西区立売堀に移転後も、地域の方々に長年にわたり病気の予防と治療、在宅医療まで一貫した医療サービスを提供してきた活動が評価され、平成24年には公益財団法人としての認定を受けました。

これからも、「済生利民」の精神のもと、最良の医療サービスが提供できるよう日々研鑽し、職員一同、3年後の『新しい日生病院』に向かって邁進して行きます。



※新病院外観イメージ図

2018年
春
OPEN!

❖ 地域への貢献(救急患者の受入れ)

❖ 地域医療機関との連携

❖ ボランティア活動の展開

❖ 各種セミナーの開催

Concept

日生病院

❖ 予防と治療の融合

❖ アートと融合した空間作り
(絵画、音楽、緑 等)



↑日本生命本館内に事務所を設置して診療を開始。(大正13年)



↑増加する患者、高度な医療水準の提供のため病院を増床。病床数は350床に。(昭和31年)



↑現病院が完成。(昭和57年)

新日生病院 建物概要

建築概要

計画地	大阪市西区 江之子島2丁目32番 他
敷地面積	7,352㎡(2,224坪) 〈現病院：4,100坪〉
延床面積	約33,000㎡ 〈現病院：26,718㎡〉
階数	地上14階・地下1階 〈現病院：地上7階・地下1階〉
病床数	350床 〈現病院：350床〉

計画地周辺

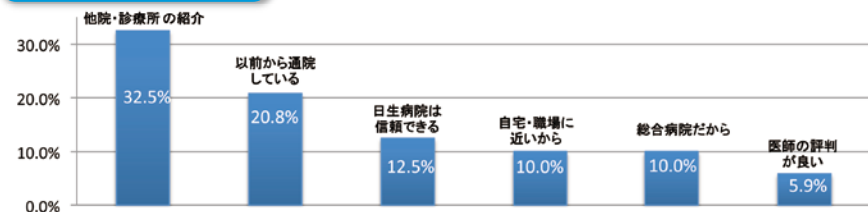


入院患者様 総合満足度 96.2%

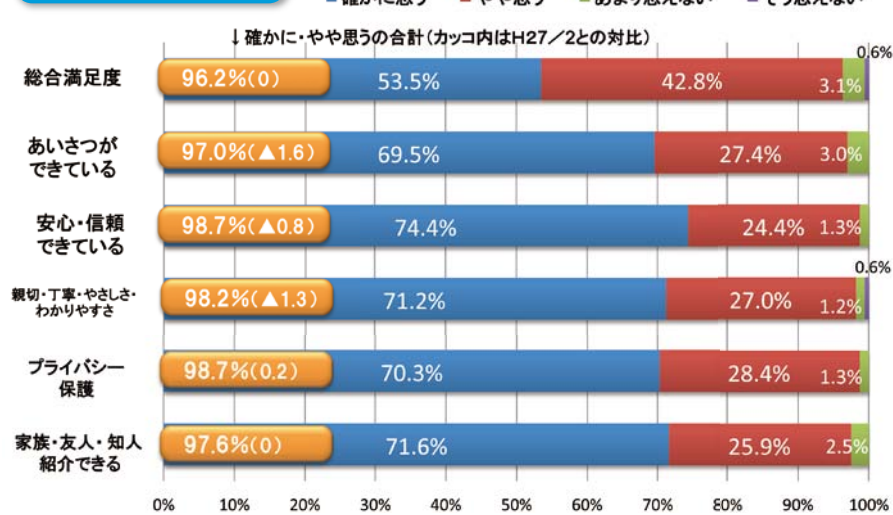
(とても・やや満足合計)

回答数=167名
・男性44%、女性56%
・70歳以上52%、60代16%、
50代10%、40代11%、30歳未満12%

当院を選んだ理由



項目別評価



お褒めの言葉

●医師・看護師の皆さまの丁寧な説明、親身になって頂いていると、とても感謝の気持ちでいっぱいです。入院中は、すべての職員の方にもいつもあいさつをして頂き、不安な気持ちが大幅に減りました。
●大阪市内にありながら足場が悪いので遠く思えますが、皆様にお会い出来て、とてもホットな気分で行けるので嬉しいですね。
●もともと他にも日生病院のような所があれば良いと思います。

平成27年度第1回 患者様アンケート

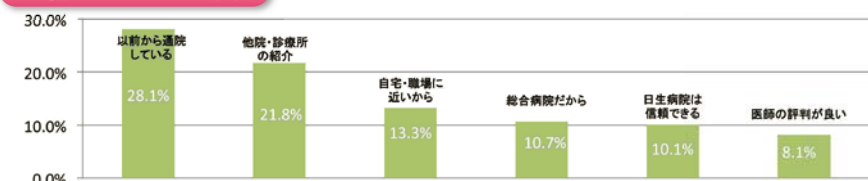
結果のご報告！ 平成27年8月24日～8月28日

外来患者様 総合満足度 92.3%

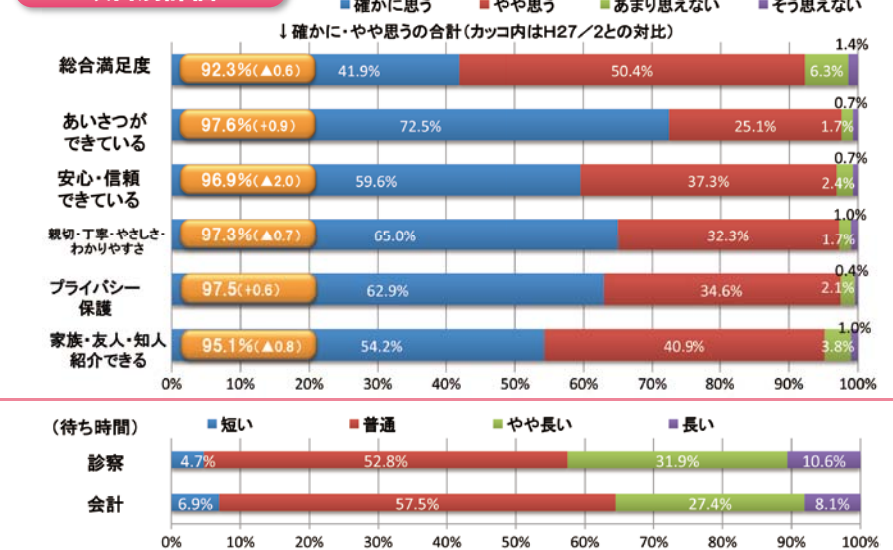
(とても・やや満足合計)

回答数=309名
・男性43%、女性57%
・70歳以上37%、60代21%、50代15%、
40代14%、30歳未満13%

当院を選んだ理由



項目別評価



お褒めの言葉

●病院全体が明るくなった。10数年通院しているが、年々改善されて気持ちよく通院しております。
●(本来は病院に来なくて良いようにするべきですが、)1人目出産時も日生でしたので、その頃からの変わらぬ安心・信頼感が2人目もお願ひしております。
●過去において入院(手術等)経験しましたが、いずれも安心・信頼でき、看護師さんも親切・丁寧に接して下さいましたので、また必要になった時には当病院を選択したいと思います。

救急診療センター

部長：三木 俊治
※写真中央

最新情報をご案内します

診療科案内

救急診療センターは平成26年4月に日生病院における救急診療の向上を目指し、内科、外科、整形外科の専門医・指導医を中心に、センター専属の専攻医2名と全科の専攻医が協力して診療にあたることで、各科・各部門の連携を強化し、地域からの救急患者受け入れをスピーディーに、的確に行うために出来ました。

最近では内科疾患だけでなく、整形外科、外科疾患の救急診療についても診療に力を入れています。

胸の痛みや腹痛、骨折など、急な体調不良の場合も対応していますので、当院に受診ください。



泌尿器科

部長：福井 辰成
※写真中央

泌尿器科は泌尿器悪性腫瘍、前立腺疾患、尿路結石、泌尿生殖器炎症性疾患、泌尿器先天性異常、慢性腎不全など泌尿器疾患、男性生殖器疾患を専門として診療を行っています。

尿路結石は体外衝撃波破碎術(ESWL)、経尿道的結石碎石術などの低侵襲手術を行っています。ESWLは平成27年9月に水中ギャップ方式から最新の電磁誘導方式の機種へ切り替えています。この破碎装置を用いることで疼痛はほとんど感じなくなり、また破碎効率も良くなり患者さんの負担はかなり減っています。

腎、副腎の手術は腹腔鏡を用いた手術をおこなっています。この手術は痛みが少なく傷が目立たないなど患者さんにとってメリットの多い手術です。

表在性の膀胱癌は内視鏡で行い身体に傷がつかない低侵襲な手術を行っています。膀胱全摘除術を要する浸潤性膀胱癌はストーマを伴う尿路変更ではなく腸管を用いた代用膀胱を作成しストーマ不要でQOLの良好な尿路再建術を行っています。

前立腺癌は根治療法(手術あるいは放射線療法)、内分泌療法、待機療法など患者さんのご希望に沿った治療を行っています。

排尿のことで困ったことや検診で尿潜血や前立特異抗原(PSA)異常など指摘された場合はお気軽に受診ください。



医療は人々の健康といのちを支えるために重要な役割を果たしています。

病院・診療所・保健所などの現場では、医師・看護師・薬剤師だけでなくさまざまな職種がチームとして働き、医療を提供しています。

優秀な医療人は優れた学習能力や技量を持つことはいうまでもありませんが、いのちを尊ぶ精神や病気に苦しむ人々に対する思いやる心を兼ね備えることが大切です。

医療崩壊が言われる中、将来の医療を背負って立つ若者たちを育てることも、私たち医療従事者の努めです。

日生病院では、こどもたちに「いのちと健康の大切さ」を実感してもらい「医療への情熱」を育む機会を持つってもらうことを目的として、小学校高学年児童を対象に、毎年「夏休みこども医療体験」を開催しています。

朝9時から夕方4時30分まで参加したこどもたちは、白衣を身にまとい、当院の職員と一緒に病院内で医療についての授業や実習を受けます。この行事も今年で8回目となりました。



ニッセイ夏休み こども医療体験2015

当日参加いただいたこども達の感想の一部をご紹介します。

- 病院でいろんなことを体験して、とても面白かったです。将来、病院で働いてみたいと思いました。
- 体の仕組みを身をもって知り、命とはどういうものかしっかり考えることができました。
- 今日一日が、宝物の思い出になりそうです。
- 病院の白衣を着てうれしかったです。医療についてもっと知りたいです。
- いざとなったら落ち着いてできるよう、AEDの体験を忘れないで覚えておきたいと思います。

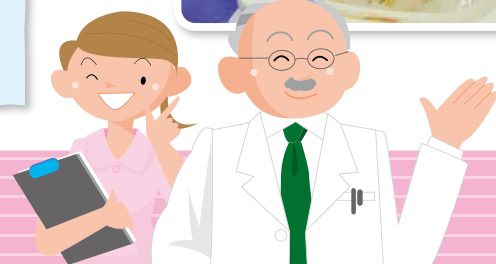


開催要項

日時
平成27年7月24日(金) 午前9時～午後4時30分
8月7日(金) 午前9時～午後4時30分

対象者
大阪市西区・中央区に居住する小学校5・6年児童約20名(各日)

主な内容
授 業: 「いのちと健康を守るためにー医療の果たす役割」
「生命の誕生ー成長ー老化と病気」, 「病院で働く人々」
実 習: 「鏡視下手術にチャレンジ」,
「あかちゃんに沐浴させよう・あかちゃんのお世話をしよう」,
「AEDを使って…、たいへんだ、人が倒れている」
体 験: 「看護師体験」, 「病院入院食ってどんなの?」
病院見学: 中央放射線部、薬剤部、中央臨床検査部、リハビリテーション室、予防医学センター 等



ニッセイあったか “七夕”コンサート

東山皮膚科部長、佐伯産婦人科担当部長、院内ハンドベルサークルをはじめ職員有志からの提案で「四季折々での患者さんへの癒し」の一環として、「ニッセイあったか“七夕”コンサート」を実施いたしました。



当日は患者さん、ご家族合わせて約140名様にいただきました。
あったかサポートセンター、小児科、リハビリテーション室にも飾りつけを実施し、笹には患者さんやご家族の願いが書かれた多くの短冊が寄せられました。



平成27年
7月7日(火)
16:00～

会 場
1階 外来ホール

七夕にちなんだボーコーラス
曲を10曲ほど演奏・コーラス
あったかサポートセンターや
小児科外来前の飾りつけコーナー



小児科

あったか
サポートセンター



講演②「知らないとソンする! 骨を強くする運動効果」
毎日コツ(骨)コツ(骨)簡単らくらく体操

リハビリテーション室 理学療法士 麦田^{むぎた}盛穂^{もりほ}

みなさんは立つことと歩くことが、なぜ骨に良いかご存知ですか?例えば、金属の板を強い力で曲げると弱い電流が発生します。実は骨にも同じ現象が起っています。

重力と筋肉の収縮が、骨に強い圧力を加えます。その圧力で骨がたわみ、その刺激で骨が作られます。つまり立つこと、歩くと自体が骨への刺激となり骨を強くします。それゆえ、人間の骨にとって重力と筋肉の収縮は非常に重要になります。

寝たきりでは無重力に近い状態のため、筋肉は1日1%

も減少します。同様に骨にも圧力が働かないので痩せていきます。骨を丈夫にするためには、筋肉量を増やし、骨に対する圧力を大きくすれば、骨は太くなります。

では、どんな運動が良いのでしょうか？それは常に筋肉の収縮を促すゆっくりとした運動です。これをスロートレーニングといいます。この運動の基本は、一動作を4拍子で行い、それを6回繰り返し、週2回以上行います。力を入れる時に息を吐くのがコツ(骨)です。

運動は1日に4種類以上行くと良いといわれています。



女性骨盤底センターパネル展示

平成27年8月24日(月)～28日(金)まで、産婦人科、栄養管理室、リハビリテーション室、薬剤部が各々パネル化しました。来院された方々が興味をもってご覧になっていました。

お薬トピックス

解熱鎮痛剤の選び方

夏が終わり、急に気温が下がって秋を実感する季節になりました。朝晩の気温の差もあり、体調を崩すこともあるのではないのでしょうか。熱を出したり風邪をひいてしまった時、市販のお薬で対応することも多いと思います。沢山ある市販の解熱鎮痛剤の中からどの薬を選ぶか、注意したい点がいくつかあります。

- ①ロキソプロフェン、イブプロフェン、アスピリンなどの非ステロイド性抗炎症薬と呼ばれるグループのお薬は、効果は比較的高いですが胃腸障害などの副作用の可能性があります。
- ②アセトアミノフェンは多量・長期の服用により肝障害の可能性があります。
- ③子供に使用する場合、単に量を減らせば良いのではなく、成分も慎重に選びましょう。配合剤ではなく、アセトアミノフェン単剤のものが比較的安全です。
- ④病院で痛み止めなどを処方されている場合、市販の解熱鎮痛剤と成分が重複してしまうことがあります。ご自身が服用しているお薬を把握しておくことが大切です。
- ⑤ピリン系アレルギーがある場合、成分のピリン・非ピリンの別を確認しましょう。

以上のようなことを踏まえて、安全に効果的にお薬を使用しましょう。ご自身で判断が困難な場合は、かかりつけ医師や薬局の薬剤師に相談してみてください。

おおにし ひでみ
薬剤師：大西 秀美

講演①「知らないでソンする! 骨粗しょう症の基礎知識」

日生病院 院長 糖尿病・内分泌センター長 笠山 宗正

骨粗しょう症とはどんな病気？

骨粗しょう症とは骨がもろく弱くなり骨折しやすい病気のことをいいます。骨粗しょう症の患者さんが起こしやすい骨折には**脊椎骨折**や**大腿骨近位部骨折**があります。

脊椎骨折は背中や腰の骨がひしゃげて潰れてしまう骨折です(圧迫骨折)。背中や腰の痛みを感じる患者さんは半数以下ですが、背中や腰が曲がって日常生活が不自由になったり下肢がしびれたりもします。

大腿骨近位部骨折は脚の付け根に起きる骨折です。手術で回復しないかぎり寝たきりになってしまうことが多く、現在では、脳血管の病気、老衰に次いでわが国の寝たきりの原因の第3位です。

骨粗しょう症の診断は どうやって行うの？

現在では**骨密度**を測定し骨粗しょう症の診断を行います。腰椎や大腿骨頸部の骨密度を測定し、健康な若い人の平均値と比較して**80%以上**であれば正常、**70%以下**であれば骨粗しょう症と診断します。70～80%であれば骨量減少と判定します。

骨粗しょう症は**原発性骨粗しょう症と続発性骨粗しょう症**に大別されます。原発性骨粗しょう症は誰にでも起こり得るものですが、閉経後女性にみられる**閉経後骨粗しょう症**が最も多く、50歳代の10%、60歳代の30%、70歳以上の女性では50%以上が骨粗しょう症と診断されます。続発性骨粗しょう症はほかの病気や薬物が原因で起こり、関節リウマチやステロイド治療に合併する骨粗しょう症などがあります。

WHOが公開している**FRAX®**(<https://www.shef.ac.uk/FRAX/>)という計算ソフトを用いると10年間の骨折の危険度を判定することができます。

骨折のない人生をおくるために

骨粗しょう症を防ぐためには、**カルシウム**や**ビタミンD**を積極的に摂取し、骨に力が加わるような運動を行い、**過度の飲酒を避け、禁煙**することが勧められます。**骨粗しょう症の治療薬**も進歩しています。骨折を防ぐために、骨により生活習慣を続けるとともに、骨密度の検査を受けご自身の骨の状態を知ることが大切です。



日生病院では、定期的に患者さんや、地域住民のみなさまのお役に立つ医療情報の提供を行っています。

日常生活の豆知識として活用し、早期発見や治療に役立てていただき、毎日を健康に楽しく過ごしましょう。

開催
しました!

平成27年度第二回
ニッセイ市民健康セミナー

平成27年
月11日(土)
14:00~

【会場】日生病院 別館講堂 参加費無料 予約不要
 【第一部】講演①「知らないとしんする！骨粗しょう症の基礎知識
 講演②「知らないとしんする！骨を強くする運動効果」
 【第二部】「アマチュア落語」桂文喬主催
 落語研究会のみなさん

3

徳田クリニック(浪速区)

とくだ よしお
徳田 好勇先生 標榜科 内科、小児科

当院は内科・小児科のクリニックです。50年以上前に父がこの地に開業してより、地域に密着した診療を続けてきました。

内科・小児科の外来診療のほか、成人・小児の予防接種・健康診断を行っています。また外来通院が難しくなった高齢者の方に、訪問診療もいたします。

胸部X線・腹部エコー・心電図検査が可能です。CT・内視鏡検査等や入院治療が必要な場合は近隣病院と連携させていただいています。

日本糖尿病学会認定専門医ですのでインスリン治療等でお困りの時、あるいはどの診療科を受診するのがよいか分からない際は当院にご相談ください。

〒556-0022
大阪市浪速区桜川2丁目11番28号
電話:06-6561-2660

休診日: 木・土曜日の午後、日祝日
アクセス: 地下鉄千日前線桜川駅下車 ③番出口より徒歩5分

※往診は月・水・金曜日の午後1:30~4:00に行っています。

		月	火	水	木	金	土	日
午前	9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	△
午後	4:00~ 7:00	○	○	○	△	○	△	△

さかざきこどもクリニック(西区)

さかざき ひろみ
坂崎 弘美先生 標榜科 小児科

小児科医になって27年、クリニックを開院してもうすぐ11年です。院内は楽しい保育園のような雰囲気、来院される方が和めるように心がけています。

可愛いお子さんたち、また一生懸命に育児をしている保護者の方と関わることができて、毎日楽しく診療しています。

7年ほど前から、漢方薬の魅力にはまり、西洋医学と東洋医学の両方を合わせて、お子さん達、お母さん方のお役に立ちたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

〒550-0027
大阪市西区九条1丁目27番6号
住金興産ビル3階
電話:06-6584-4550
<http://www.sakazakids-clinic.com/>

休診日: 火・木・土曜日の午後、日祝日
アクセス: 阪神なんば線九条駅下車 ②番出口より徒歩1分
地下鉄中央線九条駅下車 徒歩約4分
地下鉄長堀鶴見緑地線ドーム前千代崎駅下車 徒歩約7分

※予防接種・健診は、月・水・金(午後2:00~3:00) ※要予約

		月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
午後	3:00~ 6:00	○	△	○	△	○	△	△

考優会 五味クリニック(大正区)

ごみ まさひろ
五味 正裕先生 標榜科 内科、消化器内科

JR・地下鉄の大正駅から徒歩3分のところで診療所を開院して17年になります。

大学時代は、糖尿病、甲状腺疾患を含む内分泌疾患の研究・臨床に従事、一般病院に転じてからは消化器内視鏡に興味をもち研鑽を積みました。開業してからも血液検査等に加えて、超音波検査、内視鏡検査も併用して正確な診断と治療を心がけてきました。

日生病院は地理的に近く、入院治療・外来検査等いずれも迅速に対応していただき、大変感謝しています。

これからも「考える医療、優しい医療」を目指していきたいと思っています。

〒551-0002
大阪市大正区三軒家東1丁目19番3号
山縣ハイツ1階
電話:06-4394-3800

休診日: 水・土曜日午後、日祝日
アクセス: JR大阪環状線・長堀鶴見緑地線
大正駅下車 駅から南に約190m

※外来受付時間・休診日は診療科目によって異なることや変更になっている場合があります。事前に必ず医院に直接ご確認ください。

		月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	△
午後	4:00~ 6:45	○	○	△	○	○	△	△

開放型病院登録医紹介

Team Nissay

開放型病院登録医とは
病院の医師と連携しながら共同で患者さんに最良の医療を提供するため、病院に登録していただいている医院、診療所の先生のことです。日生病院では、401名の先生方に登録していただいています。
(平成27年9月末現在)

ナースの奮闘記

患者さんに寄り添う看護を

私が5階東病棟での勤務を希望したのは学生の頃の実習経験からです。病棟は循環器・神経内科の患者さんが多く入院されており、生命危機におられる方や長期の入院を余儀なくされている患者さんが多くおられました。

慌ただしい業務の中、スタッフからは常に笑顔がみられ患者さんとの関わりに温かさがみられ、スタッフ全体で一人一人の患者さんの看護を行っているように感じられました。病棟勤務4年になりますが、そのイメージ通りで患者さんのことを考え、今、何が必要なのかスタッフ全体で共有し業務に励んでいます。患者さんは心筋梗塞・脳梗塞等の急な発症や治療が長期に及ぶ神経疾患等により強い不安を持つておられます。そのため患者さま・ご家族様の気持ちに寄り添い、その方に添った治療が行える手助けが出来るよう心掛けています。そのなかで患者さんから学ぶことも多く、貴重な経験をさせて頂いています。

退院後もその方らしく生活できるということは大切なことだと思います。外来等で患者さんが元氣なお姿を見せて下さる時、自分のことのように嬉しく思います。

医学は日々進歩しており学ぶことも多く、私自身もまだまだ未熟なため、これからも患者さんとの関わりを通して成長していきたいと思っています。



5階東病棟: 氏部 良

栄養管理室通信

季節行事料理

管理栄養士 糖尿病療養指導士: 出口 暁子 (でぐち あきこ)

料理は、季節の旬の食材を利用し季節に合った料理方法や味付けを行うことで、目と舌で季節を味わうと言いますね!

入院中の食事においても、節句や季節イベントには、それらに添った料理とデザートをお出ししています。

当院では、お正月、節分、ひなまつり、お花見、端午の節句、新茶、七夕、土用、お盆、お月見、お祭り、紅葉、クリスマス、年越しなど、毎月の旬の食材を使用した「食材の日」にも特別なメニューをお楽しみ頂いています。

栄養管理室

